

2012年3月期(平成24年3月期)

決算説明会

FINANCIAL REPORT

2012年5月18日

2012年5月31日付 訂正反映版

技術のジャムコは、 士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めています。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

- この資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来に関する見通しであり、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度に関するさまざまなリスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績はこれらの見通しとは異なる結果があり得ることをご承知おきください。
- この資料における数値は、表示桁未満を四捨五入して作成、表示しております。したがって、決算短信、有価証券報告書など、表示桁未満を切捨てて作成、表示している資料とは末尾数値が異なる箇所がございますのでご了承ください。
- この資料に掲載されているセグメント売上高及びセグメント経常利益は、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号平成20年3月21日)を適用しております。
- 本資料を(株)ジャムコの許可無く転載・複写することを禁じます。又、本資料を使用することにより生じたいかなる損害について(株)ジャムコは一切責任を負いません。

Contents

I 2012年3月期決算の状況

グループ各社の状況	4
業績概要(連結)	5
売上高(連結)	6
経常利益(連結)	7
2012年3月期 決算のポイント	8
貸借対照表(連結)	9
減価償却費/設備投資額/試験研究費(連結)	10

II 中期3ヶ年計画(2012~2014年度)

経営環境と市場動向	12
内装品セグメント	15
機器製造セグメント	17
整備セグメント	19
グループ連結	21
減価償却費/設備投資額/試験研究費(連結)	22
2012年度 受注状況見通し(連結)	23
2012年度 業績予想(連結四半期)	24

2012年3月期 決算の状況



グループ各社の状況	4
業績概要（連結）	5
売上高（連結）	6
経常利益（連結）	7
2012年3月期決算のポイント	8
貸借対照表（連結）	9
減価償却費／設備投資額／試験研究費（連結）	10

【単位:百万円】

	当 社	新潟 ジャムコ	宮崎 ジャムコ	ジャムコ アメリカ	ジャムコ ヨーロッパ	ジャムコ エアロデザイン エンジニアリング	ジャムコ フィリピン	徳島 ジャムコ	ジャムコ エアロテック	その他	シンガポール ジャムコ
売上高	41,312	2,676	1,714	12,103	1,373	1,103	1	842	371	124	2,767
営業利益	1,267	△ 20	△ 83	27	36	118	△ 70	23	5	5	50
経常利益	1,196	△ 9	△ 84	△ 22	30	123	△ 71	22	5	6	50
当期純利益	549	△ 44	△ 59	29	29	104	△ 71	9	2	3	68

(注 1) 「その他」はオレンジ ジャムコ、ジャムコ テクニカル センターの合算値です。

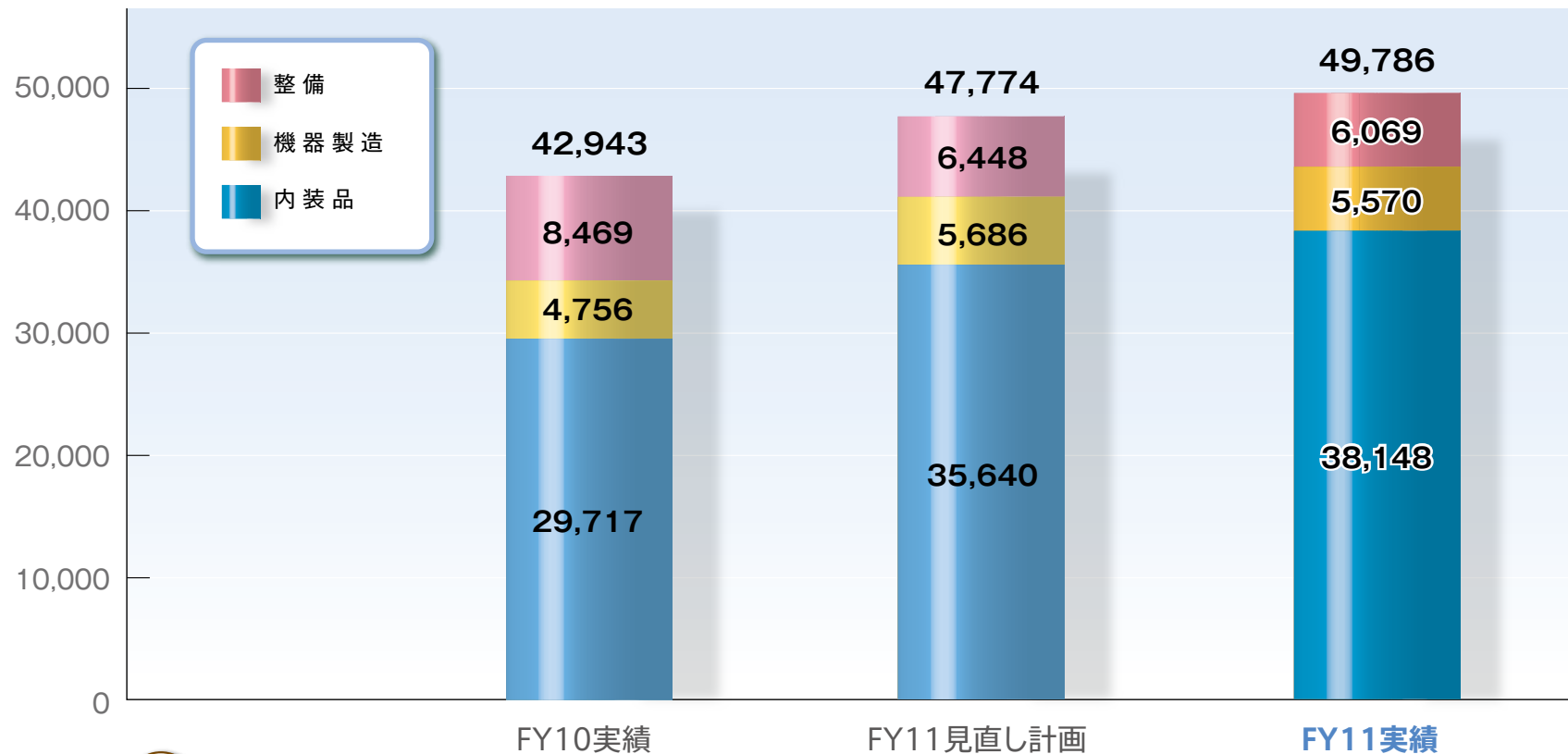
(注 2) シンガポール ジャムコは持分法適用関連会社です。

【単位:百万円】

	FY11実績	FY10実績	前期比	FY11見直し計画	計画比
売上高	49,786	42,943	+16%	47,773	+4%
営業利益	1,070	1,961	△ 45%	△ 187	—
経常利益	603	1,511	△ 60%	△ 647	—
税引前当期純利益	573	447	+28%	△ 627	—
当期純利益	12	192	△ 94%	△ 432	—
1株当たり 当期純利益(円)	0.44	7.17	—	△ 16.11	—
売上為替レート (円/USドル)	79.31	85.14	—	80.00	—

(注)「FY11見直し計画」は、2011年11月2日「業績予想の修正に関するお知らせ」発表時の業績予想数値です。

【単位:百万円】



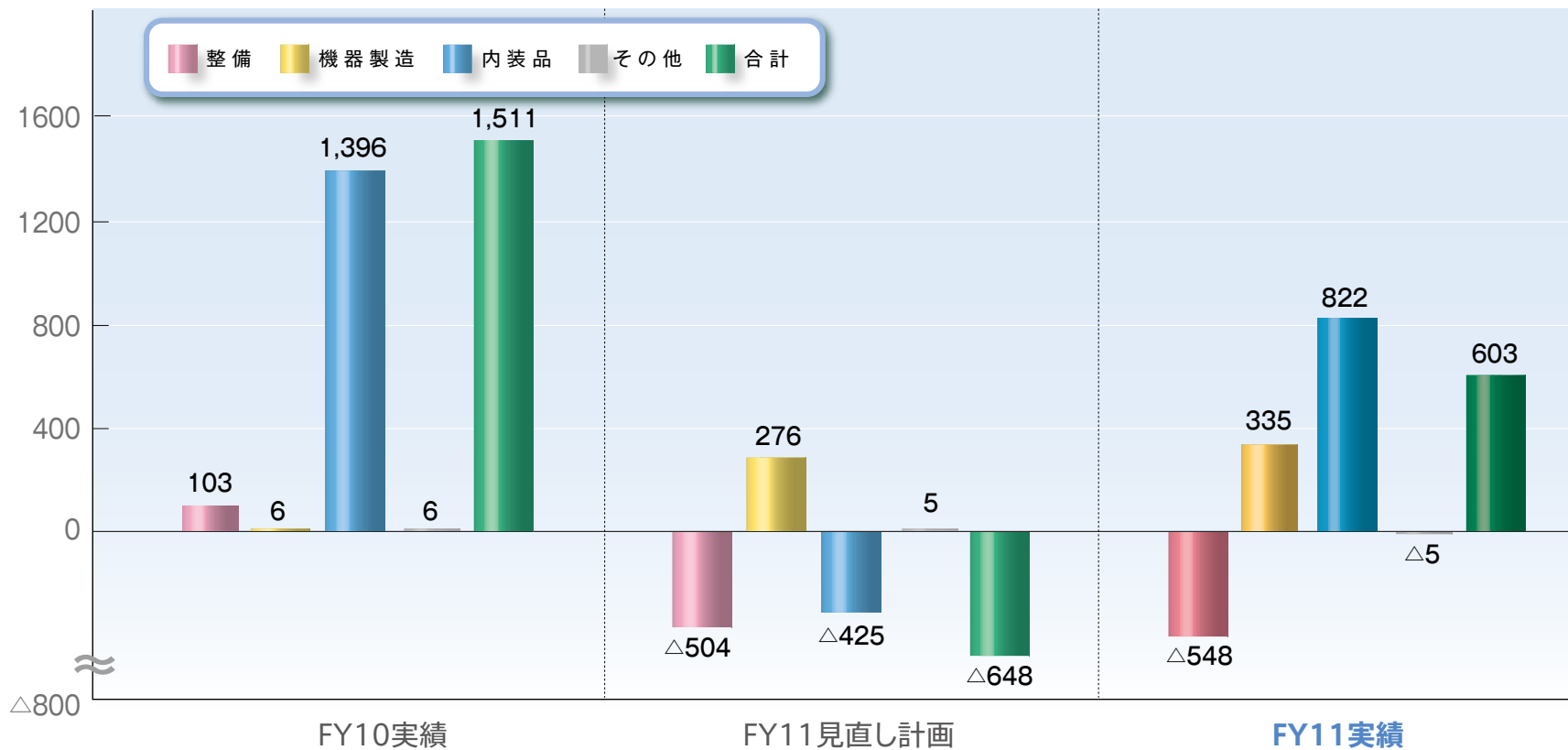
POINT

FY11見直し計画対比

- 内装品はギャレー等のBFE関係の出荷が好調で増加
- 機器製造は顧客先の生産調整により僅かに減少
- 整備は仙台整備工場復旧後も装備品整備の受注が低調で減少

(注) 「FY11見直し計画」は、2011年11月2日「業績予想の修正に関するお知らせ」発表時の業績予想数値です。

【単位:百万円】



FY11見直し計画対比

- 内装品は急激な円高対策として取り組んできた各種コスト削減や生産効率改善の効果により増益

(注) 「FY11見直し計画」は、2011年11月2日「業績予想の修正に関するお知らせ」発表時の業績予想数値です。

前期比

【単位:百万円】

	FY11実績	FY10実績	差異
経常利益	603	1,511	△ 908
売上総利益	5,734	6,409	△ 675
販管費	4,663	4,449	214
営業外損益	△ 467	△ 450	△ 17

見直し計画比

【単位:百万円】

	FY11実績	FY11 見直し計画	差異
経常利益	603	△ 648	1,251
売上総利益	5,734	4,703	1,031
販管費	4,663	4,891	△ 228
営業外損益	△ 467	△ 460	△ 7

(注)「FY11見直し計画」は、2011年11月2日「業績予想の修正に関するお知らせ」発表時の業績予想数値です。

POINT

【前期比】

売上総利益：内装品の円高による売上高の目減り、及び東日本大震災で仙台整備工場が半年操業を停止したことによる売上減少が響いた。

販管費：内装品の売上高増加により、販売手数料、保証工事費が増加。

【見直し計画比】

売上総利益：内装品で円高対策として取り組んだ各種コスト削減により増益。

販管費：大幅に抑制。

【単位:百万円】

科目	FY11末 2012年3月31日現在	FY10末 2011年3月31日現在
〈資産の部〉		
流動資産		
● 現金及び預金	2,902	3,451
● 受取手形及び売掛金	14,929	15,777
棚卸資産	22,360	22,266
その他流動資産	3,674	3,529
流動資産合計	43,865	45,023
固定資産		
● 有形固定資産	8,804	8,396
● 無形固定資産	1,028	707
投資その他の資産	3,173	3,445
固定資産合計	13,005	12,548
資産合計	56,870	57,571

【単位:百万円】

科目	FY11末 2012年3月31日現在	FY10末 2011年3月31日現在
〈負債の部〉		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,440	6,268
● 短期借入金	17,767	15,875
その他流動負債	6,280	6,802
流動負債合計	31,487	28,945
固定負債		
● 長期借入金	3,624	6,655
その他固定負債	6,397	6,401
固定負債合計	10,021	13,056
負債合計	41,508	42,000
〈純資産の部〉		
純資産合計	15,362	15,571
負債及び純資産合計	56,870	57,571

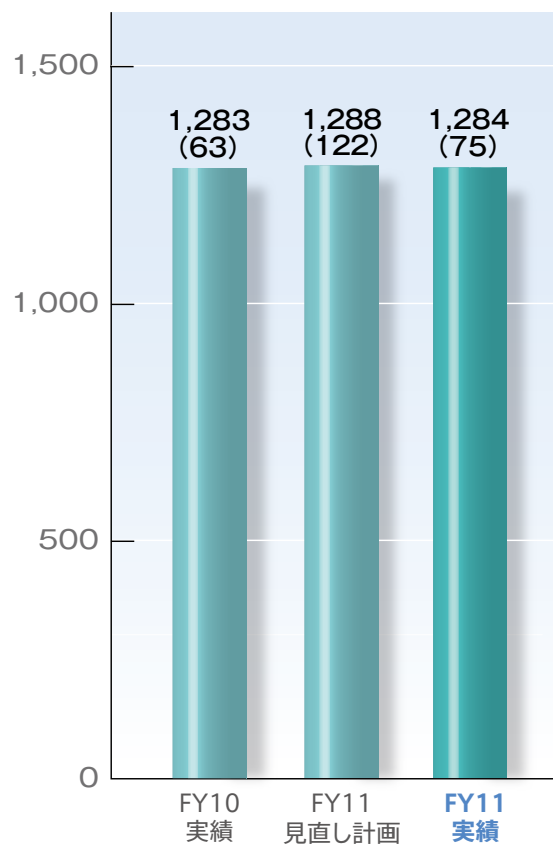
POINT

● 現金及び預金／受取手形及び売掛金／借入金総額の減少
売掛金の回収増に伴い借入金を返済

● 有形固定資産、無形固定資産の増加
仙台整備工場復旧、内装品の増産体制及び、IT関連の設備投資

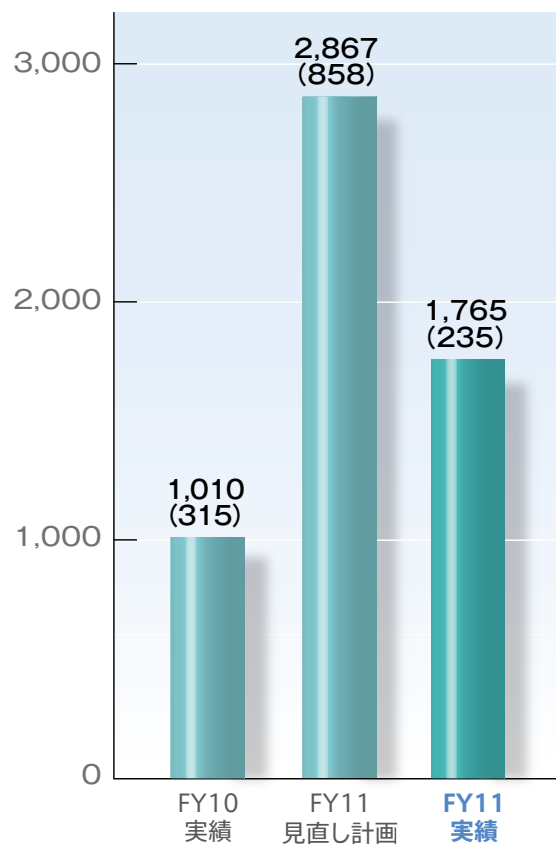
【単位:百万円】

減価償却費(連結)



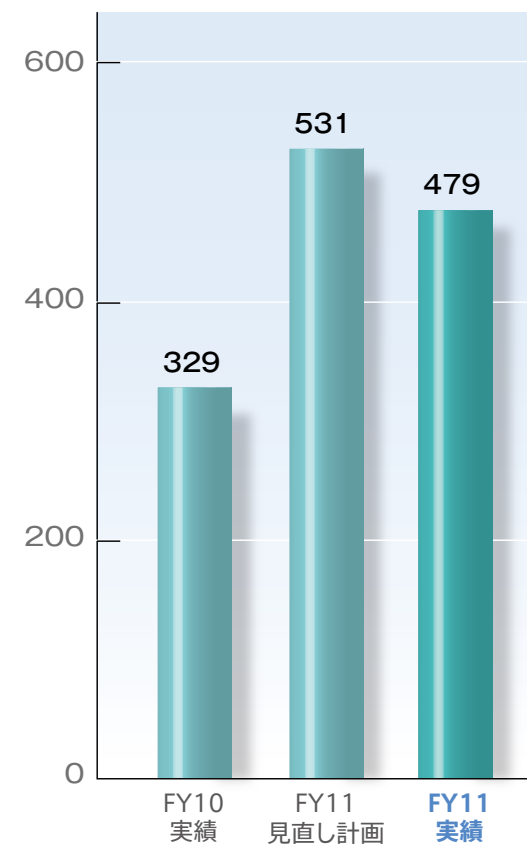
【単位:百万円】

設備投資額(連結)



【単位:百万円】

試験研究費(連結)



()内はリース資産分

設備投資には()内の全リース物件を含む

(注)「FY11見直し計画」は、2011年11月2日「業績予想の修正に関するお知らせ」発表時の業績予想数値です。

中期3ヶ年計画 (2012~2014年度)



経営環境と市場動向.....	12
内装品セグメント.....	15
機器製造セグメント.....	17
整備セグメント.....	19
グループ連結.....	21
減価償却費／設備投資額／試験研究費（連結）.....	22
2012年度 受注状況見通し（連結）.....	23
2012年度 業績予想（連結四半期）.....	24

- ① 長期的には旅客需要と新造機需要は拡大してゆく。
- ② 大手機体メーカーの業績は好調で、生産も順調。
- ③ エアラインは原油高や低価格競争により厳しい経営環境にある。
燃費の良い新型機種を導入やLCCの設立、資本提携の活発化。
- ④ 為替相場は円高基調で推移すると想定し、中期3ヵ年計画は
78円/USドルで立案。

航空機メーカーの動向 (2012年3月末日時点)

● ボーイング社の受注残機数

狭胴機 2,679 機 (前年同期2,162機)

広胴機 1,366 機 (前年同期1,283機)

● エアバス社の受注残機数

狭胴機 3,329 機 (前年同期2,306機)

広胴機 1,067 機 (前年同期1,128機)

出所: Speed News Home Page「COMMERCIAL JET AIRCRAFT PROGRAM STATUS:MARCH 31,2012」

新型旅客機の開発・生産状況

● 787の生産状況

- 2011年9月26日にANAへ初号機引き渡し完了
- 2012年4月末日現在 受注残機数843機
- 2013年後半から月産10機を計画

● A350XWBの開発状況

- 2014年に就航する予定
- 2012年3月末日現在 受注残機数は555機

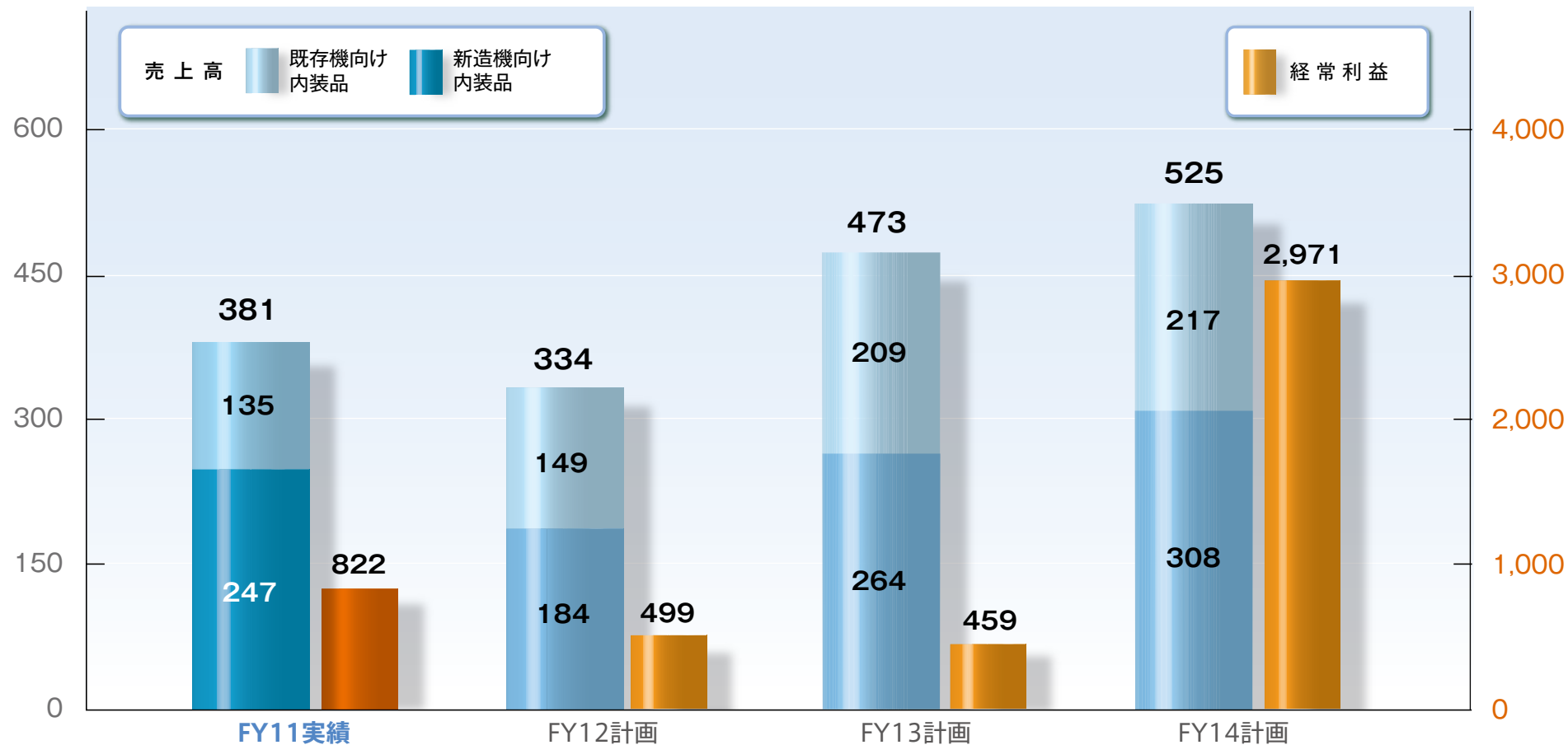
● A380の生産状況

- 2012年3月までに、71機引き渡し完了
- 2012年3月末日現在 受注残機数は182機

(注)受注データについてはボーイング社、エアバス社HPより

【単位：億円】

【単位：百万円】



(注) 中期計画の為替レート FY12~14 78円/USドル

① 787プログラムの効率的な増産体制の確立

② 円高対策

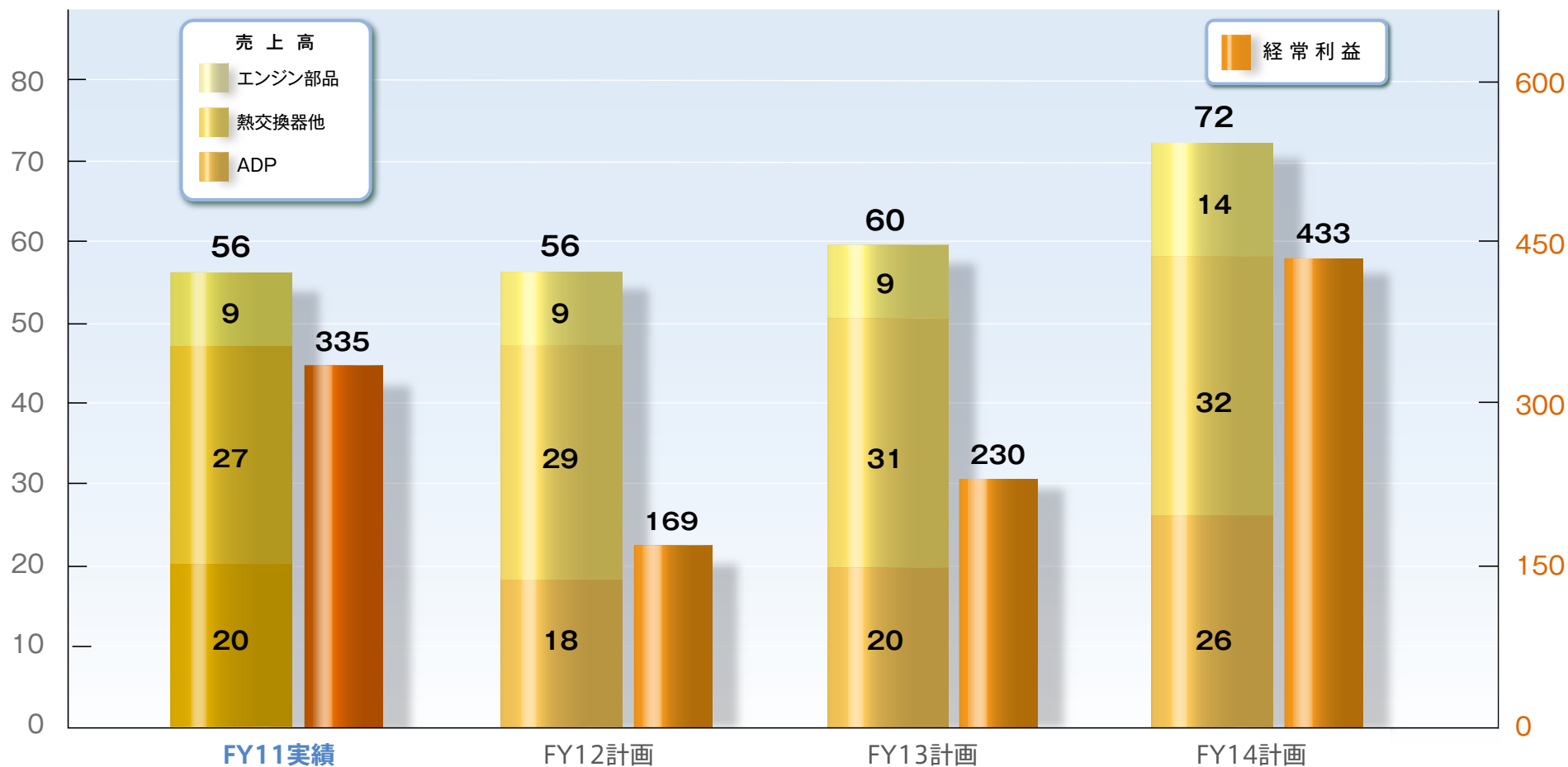
- 海外子会社の活用による、コスト低減及び海外調達率の引き上げ
- 円建て契約の促進

③ 新規事業の検討

- エアバスA350XWBプレミアム・シートサプライヤーの認定を取得(2012年3月)
- シート事業への参入を検討
- その他内装品事業の業容拡大

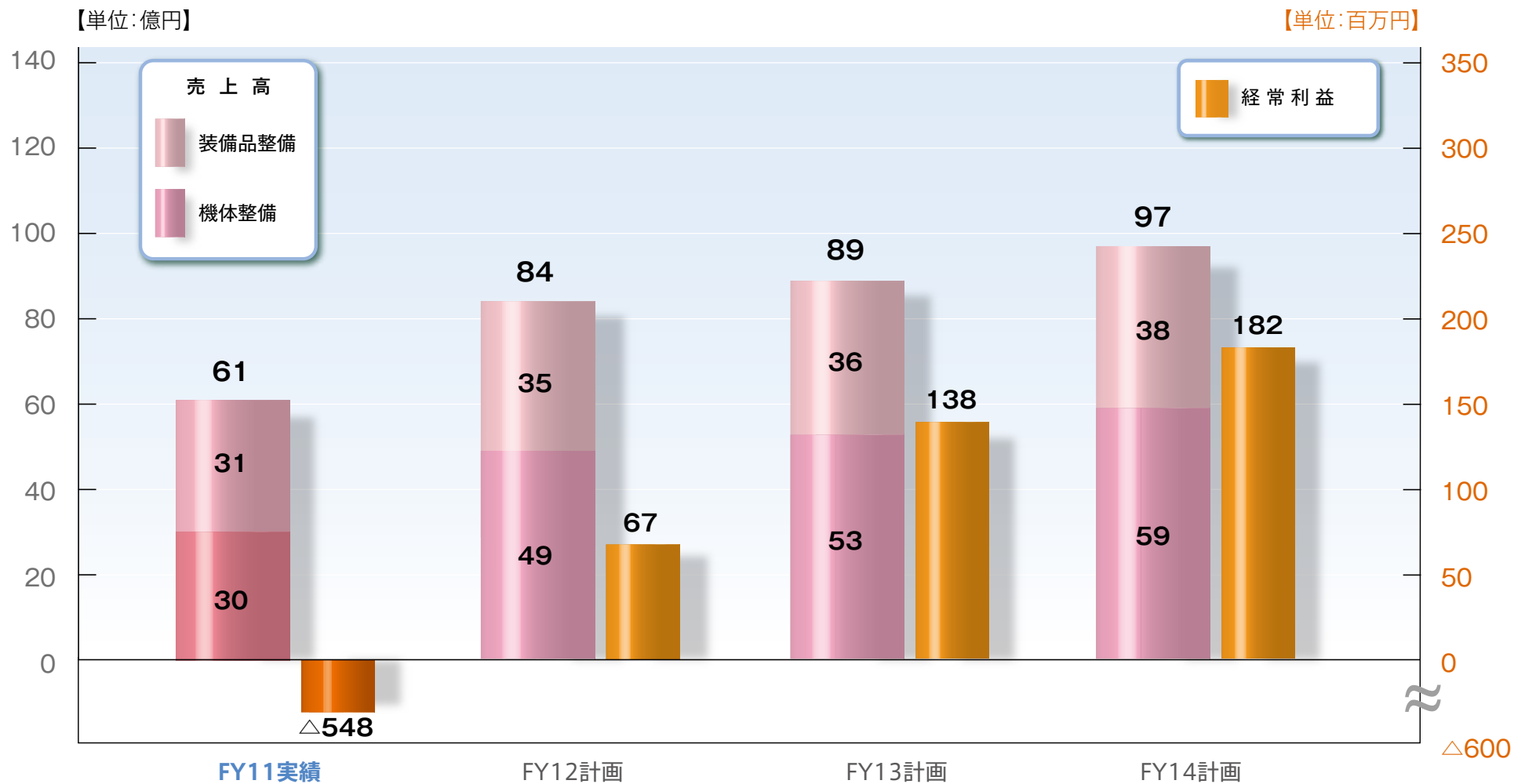
【単位:億円】

【単位:百万円】



(注) 中期計画の為替レート FY12~14 78円/USドル

- ① **コア製品である従来品(熱交換器等)の応需能力の強化と収益の向上**
- ② **宮城新工場の建設と移転準備**
 - 4月末に着工、今期中に完成、FY13より稼働開始
- ③ **航空機炭素繊維構造部材ADP事業の競争力向上と収益改善**
 - ADP技術応用製品の開発促進



① 仙台整備工場を中心とした機体整備の受注量確保

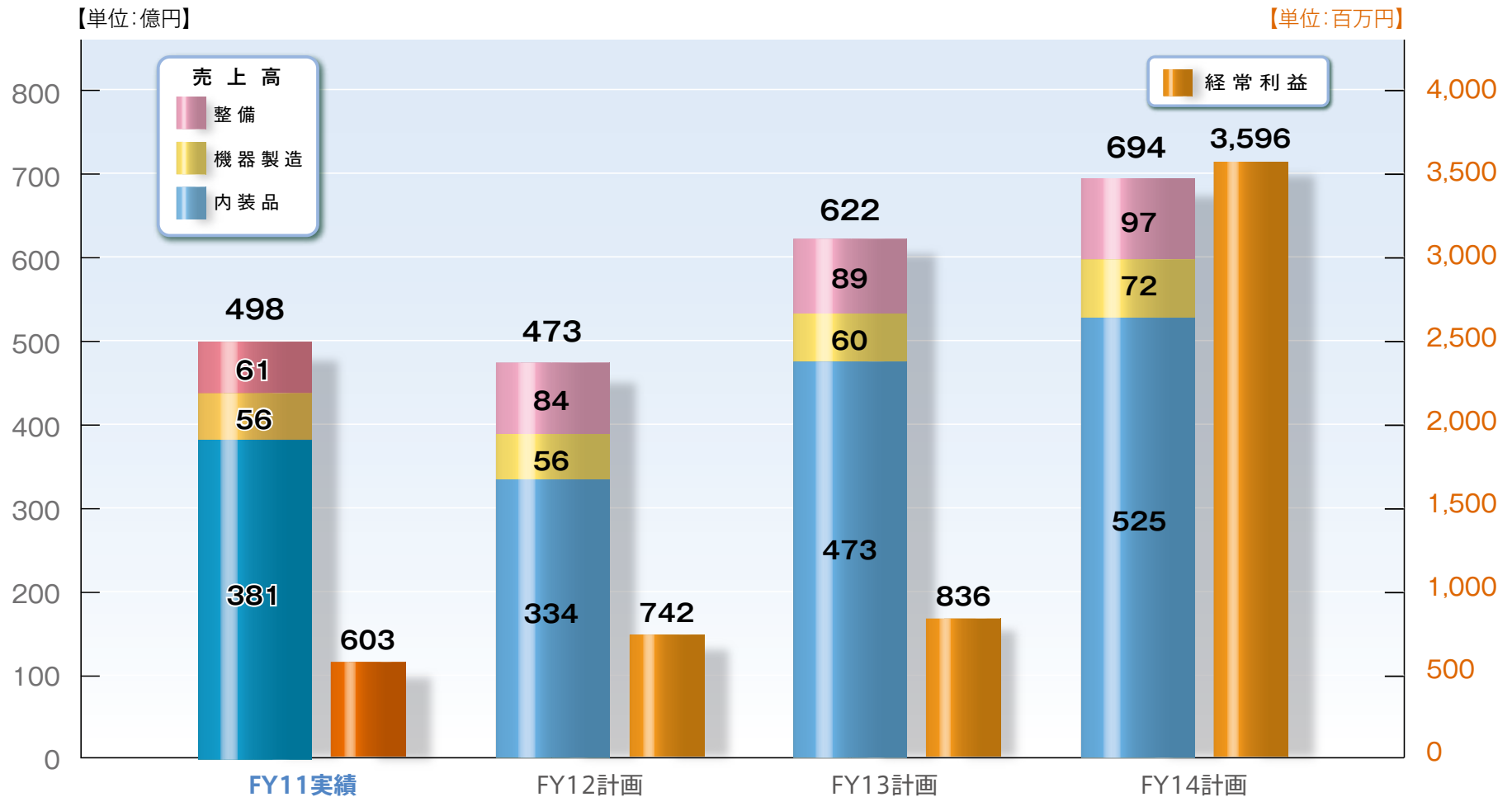
- 震災以前の通常操業度への回帰

② 品質保証体制の強化

- 規程遵守の徹底と人財育成
- 品質内部監査員のレベルアップ

③ ERPシステムの導入

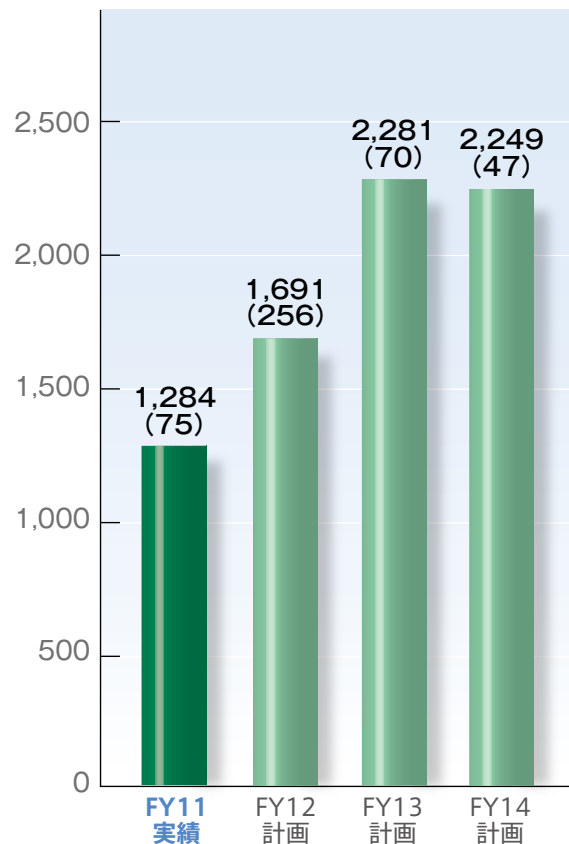
- 新基幹業務システムの運用を早期に定着させて、経営のスピード化及び間接コストの低減を図る



(注) 中期計画の為替レート FY12~14 78円/USドル

【単位:百万円】

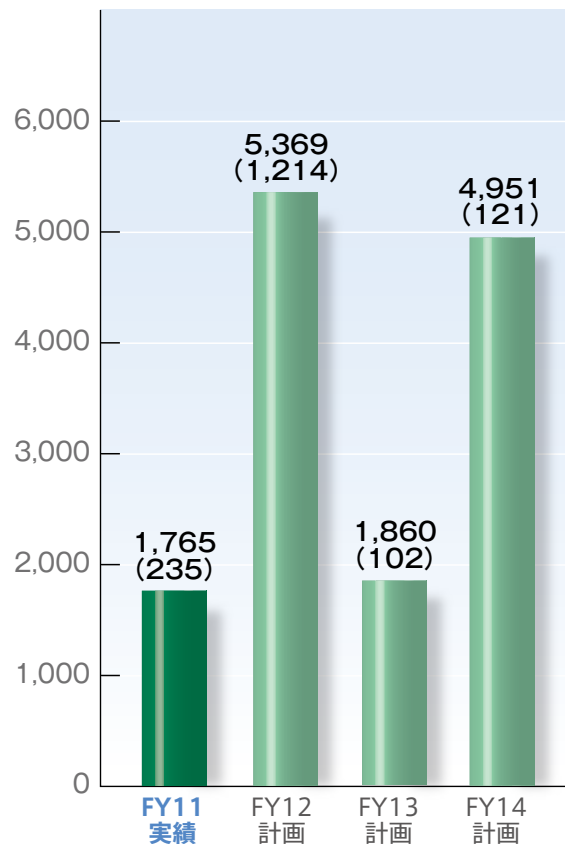
減価償却費(連結)



()内はリース資産分

【単位:百万円】

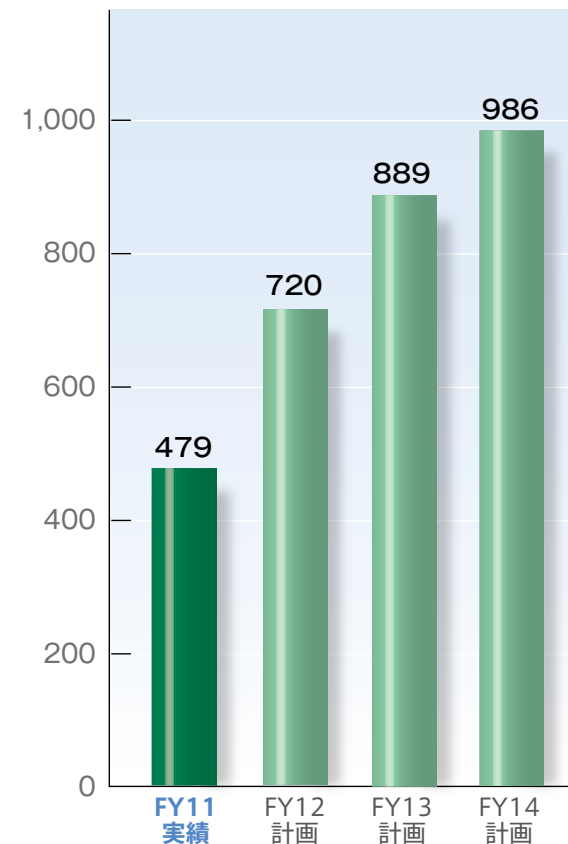
設備投資額(連結)



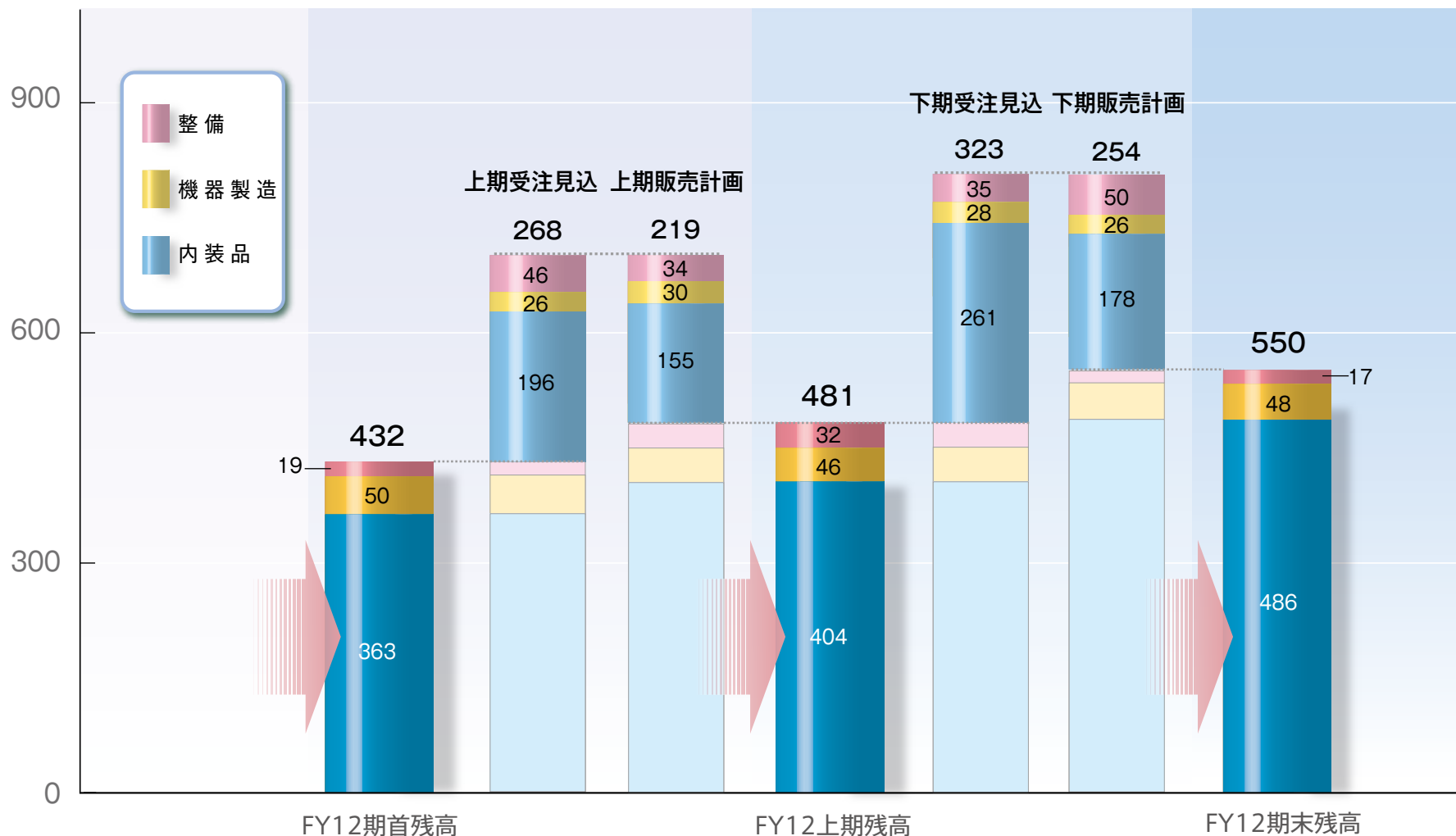
設備投資には()内の全リース物件を含む

【単位:百万円】

試験研究費(連結)

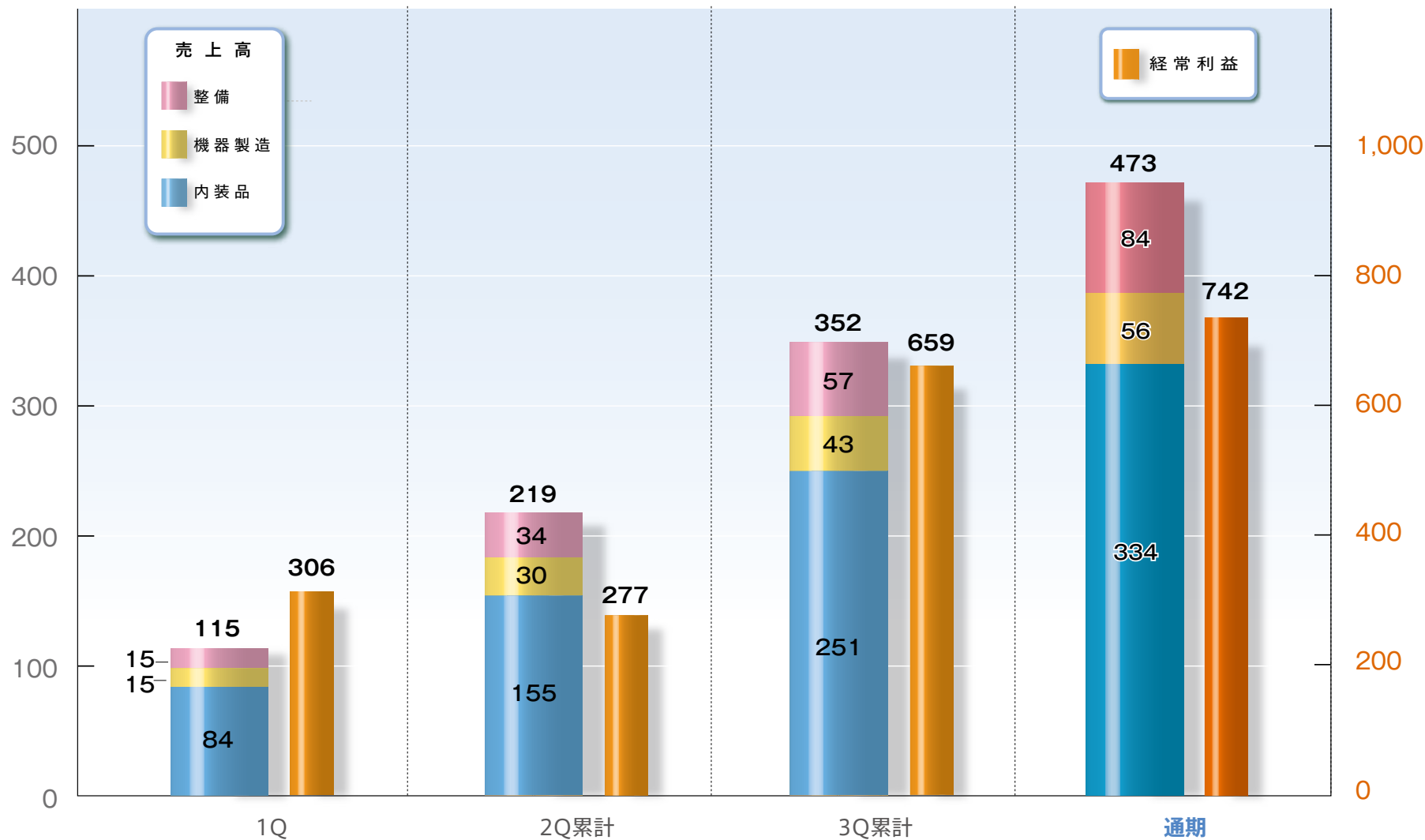


【単位:億円】



【単位：億円】

【単位：百万円】



(注) 中期計画の為替レート FY12~14: 78円/USドル

技術を翼に世界の空へ

 **Jamco**
ALWAYS FLY TOGETHER



Always Fly Together